（個人）　　（報　告　　田　中）

山（山域・ルート）　高　岩（妙義山系）

【日時】２３年１０月４日（火）

【メンバー】

田　中　　（計　１　名）

【行動記録】

大宮６時１０分（クルマ）⇒（関越・上信越道）⇒恩賀登山口（８時２０分）⇒鞍部（８時５０分）⇒雄岳（９時１０分－９時２５分）⇒鞍部⇒雌岳（１０時１分）⇒鞍部⇒恩賀登山口（１０時４８分）⇒（関越・上信越道）

高岩（標高１，０８４ｍ）

恩賀登山口 → 鞍部 → 雄岳 → 鞍部 → 雌岳 → 鞍部 → 恩賀登山口 →

【装備・食料等】

携帯電話、ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、救急薬、ツエルト

水（１．５リットル）、食事（朝・昼食）、行動食

【感想】

上信越道を碓井軽井沢ＩＣで降りて、八風平キャンプ場はわずかの距離である。西登山口はそのすぐ前のはずであった。しかし、いくら捜してもそれらしき口は開かれていない。下りてくる予定の東登山口も見つからない。行ったり来たりを繰り返したが、諦めて、インターネットで見た情報に、恩賀に登山口があったはずだと思い出し移動した。恩賀登山口はすぐに見つかった。この山は、三つの岩峰を持つ雄岳、雌岳からなり、雄岳は、垂直に近い２０ｍのチムニーの鎖場で有名である。裏妙義の丁須の頭、迦葉山の和尚台、金洞山の鎖場と経験してきたが、これまでにない苦戦をした。足場もあり、たいしたことないと思って登り始めたが、身体が上がっていかない。腕の力、握力の衰えを感じざるを得ない。やっとのことで上り、山頂に立つと、素晴らしい展望が待っていた。邪魔するものは何もない。特徴的な岩峰を思い思いに上空に突き出した西上州の山々、緩やかなカーブを描き緑の森の中を走る上信越自動車道、特に青空をバックに茶褐色の浅間山の山容が美しい。山頂を後に、鎖場を慎重に下ると、鞍部から今度は雌岳に登ってみる。最高峰は道具がないと登れない。２時間１０分という短い行程であったが、緊張もあり今日はこれで十分満足できた。